

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に触れる所に理念が掲げられ、日々確認し合い、共有し実践に繋げている。	独自の理念を要約した「利用者の尊厳を守っていく」ということを一番に掲げ、利用者の笑顔と気持ちを大切に、職員は共に暮らしを営んでいけるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や小中学校、ボランティアらの招待による行事参加や、毎月1回の地元・傾聴ボランティア来訪による交流など、日常的につきあいは行われている。	地区の町会に加入し法人として町会費を納め、総会にも出席している。また、地区の清掃活動の一環としての河川清掃に参加したり、町の商店街のお祭りにも出かけ地域にとけこんでいる。町の社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」に作品を出品し利用者とともに足を運んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行われている地元・中学校の福祉体験学習の受け入れを通じ、認知症の人の理解や支援に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の職場会議を通じ、推進会議での協議内容を共有し、その意見をサービス向上に活かしている。	家族、民生委員、地域包括支援センター保健師等の出席をいただき平日に開催している。運営状況や利用者の日頃の様子等を伝え、双方の話し合いをしている。出された意見や要望は検討しホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必ずしも積極的、且つ、密とは言えないが、概ね取り組んでいる。	介護認定調査の面談をホームで行なう場合があり、その折には職員が情報提供をし認定調査員に協力している。また、家族等からの申請代行の依頼があれば行っている。町の介護保険事業所会議が3ヶ月に1回開催され、ホームからも出席し地域の情報を得ながら協働歩調をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階なので利用者の転落など万が一に備え、階下に通じる扉にはやむを得ず施錠している。その他は、身体拘束をしないケアに努めている。	1階玄関の施錠はしていない。2階は転落防止のためにやむを得ず施錠をしている。ホームには4つの委員会があり、そのうちの一つに「研修委員会」があり、委員が計画し、1・2階合同で身体拘束をしない研修等を行い、職員も正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修などで虐待防止について学ぶ機会を設けている。一方で、ある種の言動が虐待に相当すると考える一部職員もいるが、全体としては防止に努めている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は関心があり、利用者にも制度を受けている人もいる一方、近年研修などへの参加者はなく、制度の活用と支援が行われているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は、主に管理者が行っている為、わからない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は、運営推進会議などで外部に表わす機会があり、運営に反映させているが、利用者の直接的意見については必ずしもその機会を設けてはいない。	三分の一の利用者が口頭で要望を伝えることができる。意見や要望を伝えられない方には、時間をかけて表情や態度、仕草等から職員が汲み取っている。家族会を年2回開催し、秋の家族会は話し合いを主に行い、職員と気軽に話しができる機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、毎日のミーティング等を通じ、概ね出来ている。	全体会議と1・2階の各職場会議を月末に開催している。法人全体の報告やホームの現状報告を行い、階ごとに利用者一人ひとりについて話し合い、情報の共有化を図っている。ホーム長との面談があり提案や要望についても話す機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	わからない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ね実践されているが、法人外研修への参加の機会を増やす必要があると思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の他事業所との交流機会はあるが、地域の他事業所との取り組みは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを尊重し、円滑なコミュニケーション作りの為の声掛けや接し方に注意し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り要望に応えつつ、新しい提案をしている。また面会時には家族に、本人の様子を伝える、など、その関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一部は出来ているが、全てではない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との作業やレクを通し、関係を築いている。過酷な時代を過ごした利用者達と共に過ごせる喜びを感じながら接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切に、日常の様子を毎月の手紙や、面会の折に伝えることで、共に考える機会を持ち、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の支援を除き、現在、努めているとは言えない。	家族から電話があった時などは利用者の元気な声を聞いていただくこともある。ホーム利用前から馴染んでいた店にコーヒーを飲みに出かけたり、お菓子を買ひに出かけるなど日ごろの暮らしの中に利用前からの生活パターンを取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合ったり尊重し合える様な声掛けや見守りを通じ、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地元で出会った時に話したり、本人の様子を聞くことはあるが、必ずしも努めていない。一方、他事業所へ移った利用者に面会し、担当者に様子を聞くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをよく聞き、また日々の会話や表情、関わりの中でその思いをくみ取れるよう努め、意向に添える様、職員間で意識共有をしている。	職員は利用者の生活歴や家族等からの聞き取り、利用後の日々の心身状態を把握し、思いや意向を言葉や表情から推し量っている。そのため、状態の重い利用者の方も職員の声がけに応じて表情や目に動きがあり、五感を使い非言語でのコミュニケーションができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人との会話から本人の生活歴や暮らし、当時の時代の様子などの情報収集により、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の体調や心の変化に配慮しながら、個別性を尊重し、その支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討その他で話し合いは行っているが、介護計画の作成に至らぬケースが多く、一部を除き出来ていない。	居室の担当制をとっている。モニタリング時に計画作成担当者が居室担当者に意見を聴くこともある。日ごろの利用者の状態を観察した「身体状況ノート」があり、情報共有にもつながっている。身体状況や意向に変化があった場合には、随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他、連絡ノート(又は身体状況ノート)を通じて情報共有し、実践などに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせ、一部をとり組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが関心を持てる事が資源と結びつく様に心掛け、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望・選択により、法人内(クリニック)の医師の診療、協力医療機関への通院など、適切な医療の提供がなされている。	地元の大きな総合病院がほとんどの利用者のかかりつけ医になっている。同じ法人で運営するクリニックがすぐ近くにあり往診も可能となっている。定期受診については家族等の都合により職員が代行しお連れすることも多い。一人ひとりの利用者の身体状況については「クリニック連絡帳」を使い、職員の情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	症状の変化や気づきを看護職にその都度伝え、相談し、適切な受診や看護を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り面会に行き、利用者本人の状態確認はもとより、病院関係者から経過を聞いている。退院時のカンファレンスも含め、病院側との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に合わせ、早い段階から家族に説明・相談し、支援に繋げているが、本人との話し合いが十分に出来ていない。また、地域の関係者との連携は十分でない。	平成26年2月、1名の方の看取りを行った。その際、自然な形でのお見送りをし利用者や職員の動揺や混乱は少なかった。医療行為が必要となった時点で利用者や家族、かかりつけ医などと話し合い、検討結果を踏まえその後の方向性をお互い確認し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命講習はほぼ全員が受講している。また日頃から利用者の状態把握・共有に努め、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署をはじめ、地域防災担当者を招き、年2回の防災(避難)訓練を実施している。運営推進会議でも常に防災について取り上げ、話し合いを行っている。	年3回の避難訓練や災害訓練を行っている。自治会長や地区の防災担当者、地域住民の参加をいただき行われている。訓練時には利用者の方も実際に避難をしている。3日分の備蓄も常備している。	ホームは1階と2階のユニットになっているため、災害時、2階からの避難・誘導に難しさを感じる。夜間想定や自然災害想定訓練を検討し2階を主とした訓練を実施されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりを尊重した言葉かけや対応を心掛けているが、全員で実践できているとは言えない。	人格の尊重などの研修を法人で行い職員は参加している。また、入浴時の同性介助にも気配りをしている。利用前に本人や家族等と呼び名の確認をし、苗字にさん付けでお呼びし中には名前でさん付けの方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表わしやすい雰囲気作りに努めているが、実践出来ていない日もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで、ゆっくり過ごして貰っている。その日の過ごし方、食べ物など、なるべく希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴後などの整髪、散髪や爪切り、季節に合った衣服など、その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下準備などを一緒に行い、食べる際に感謝を伝えたり、季節の食べ物の話題を出す、などしている。一方、片付けは職員が行っている為、全てに取り組んでいるとは言えない。	8割の方が介助なしで食事ができる。食事形態は常食の方が3割で、残りの方にはキザミやトロミ等の工夫をしている。献立や食事作りは職員が当番を決めて当り、利用者と一緒に食事をしている。訪問調査当日も、和やかに料理の話しながら食べられ「これも美味しいけど、あんたの作ったご飯も美味しいよ」と会話も弾み楽しい昼食であった。敬老会にはお赤飯を炊き、餅花作りや梅干作りなど、季節や習わしに沿って利用者も楽しみながら関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分に注意して支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に対して実施は出来てないが、概ね行っている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないよう、声掛けをしたり、排泄パターンや習慣を考慮し、支援している。	1階・2階とも自立の方、布パンツやリハパンツ使用の方と様々であるが、声掛けし誘導している。職員の支援もさりげなく、食事前や食事の後など一人ひとりの利用者に合わせ適確に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表による確認のほか、食物繊維の多い食事や、ヨーグルトなどの乳製品を出す、など、便秘対応に取り組んでいるが、原因や及ぼす影響について掘り下げて理解しているとは言えない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際、一人ひとりに声掛けしているが、職員の都合によるところが多く、必ずしも利用者が希望するタイミングでの支援とは言えない。一方で、快適な入浴を、全員で努め、心掛けている。	入浴時、職員2名で介助する利用者もいる。週2～3回を目安に利用者の意向に沿った入浴支援が行なわれている。入浴時間も午前、午後と分けており、入浴を拒む方にも無理強いすることなく、時間を変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各部屋の冷暖房の温度を一人ひとりの好みを聞いて調整し、冬場は各室、加湿器や濡れタオルによる乾燥防止策をとっている。就寝前など、安心して眠れるよう、声掛けに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった際は、状態を見守り、変化があれば医師や看護師に確認している。一方、利用者が使用する薬については、全て理解しているとは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や行事食作り、誕生日会、清掃、裁縫ほか、様々な機会を通じて支援に努め、実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉狩り、地元小学校の運動会見学のほか、日常のドライブなど季節にふれた外出機会を多く作り、支援している。一方、天候に左右されることが多い。	閑静な住宅地の一角にあるホームで、町の商店街も近く、利用者も散歩しながら買い物に出掛けている。町の体育館で行われる「ふれあい広場」や商店街の夏祭りの見学にも出掛けている。車椅子対応の方が6名いるが、お花見やもみじ狩などで遠出している。	

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談したり、一緒に買い物に出掛けるなどで対応、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者について、電話の取次ぎや、手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや花、季節や行事に合わせた飾りなど、主に女性職員を中心に心地よく過ごせる空間づくりを工夫している。	1階・2階とも同じ造りで居間兼食堂は天井も高く広々とした空間になっている。畳敷きの小上がりには炬燵が置かれお昼寝用のまくらや毛布も置かれていた。居間兼食堂からはキッチンも見渡せ、食事作りを見ながら利用者と職員の会話があり、使いやすい間取りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話せるよう、席の場所を工夫したり、共有空間の後方にある和室を利用して貰うなど、対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の担当を決め、整理整頓をしている。使い慣れた物や家族との写真、本人が作ったものなど、個性や生活歴を感じる部屋になるよう、工夫をしている。	居室担当者が掃除をしている。床清掃については毎日清掃を行っている。居室には造りつけの整理戸棚と可動式の小ぶりの整理ダンスが備えつけられている。利用者は思い思いの場所に自宅から持ち込んだ重厚な筆筒を置き、花や写真なども飾り、穏やかに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の利用者の状態に応じ、なるべく出来ることは自分でやってもらい、そうでない時は本人の自立心や尊厳を損なわないよう、さりげない援助をしている。		